

災害に備えて



風水害や土砂災害、地震など多様化する災害に備えるため、すみやかな情報提供や社会全体での支援と連携等に尽力し、災害に強い地域・大分を目指します。

防 災

地域への防災支援

災害対応支援

大規模災害時の応援等に関する協定

地方公共団体の対応能力を超えるような大規模災害の場合には、災害発生直後の自治体は被災者の対応に追われ、被害状況把握などが非常に困難となります。そのため事前に国、自治体の双方で災害対応の仕組みをルール化しておくことで、円滑な支援が可能になります。

九州地方整備局では管内市町村と応援に関する協定を締結しています。

- ① 所管施設の被害状況の把握
- ② 情報連絡網の構築
- ③ 現地情報連絡員（リエゾン）の派遣
- ④ 災害応急措置
- ⑤ その他必要と認められる事項

[情報提供・共有]
[技術支援]
[災害対策用機械の派遣]

市町村が管理する施設であってもその復旧支援が行えるよう市町村と協定を締結し
迅速な支援が行える体制を構築

情報提供・共有



ヘリコプター等による災害初期のライブ映像を自治体に情報提供します。

技術支援



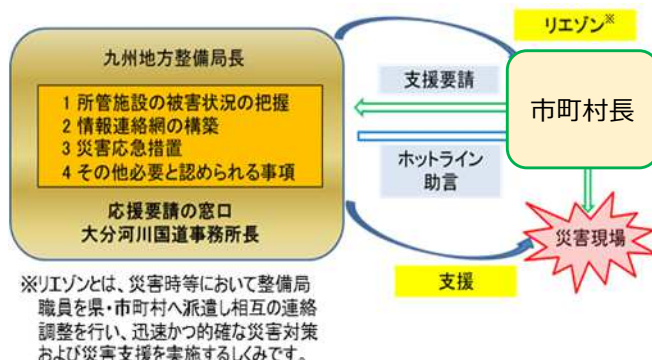
大規模な自然災害に際して、被災状況の把握や被災地の早期復旧のための技術的支援を迅速に実施します。

災害対策用機械の派遣



国土交通省が保有する災害対策用機械（防災ヘリコプター、排水ポンプ車、照明車、衛星通信車、遠隔操縦バックホウ等）を必要に応じ派遣します。

大分河川国道事務所の担当市町村



○大分河川国道事務所担当市町村（13市町村）

大分市、由布市、国東市、日田市、姫島村、豊後高田市、日出町、杵築市、九重町、宇佐市、玖珠町、別府市※、中津市※
（※他事務所と重複で担当）

○山国川河川事務所担当市町村（1市）

中津市

○佐伯河川国道事務所担当市町村（5市）

豊後大野市、竹田市、臼杵市、津久見市、佐伯市

○別府港湾・空港整備事務所担当市町村（1市）

別府市

災害協定市町村

防災情報の共有化等による連携強化

地方自治体等の関係機関や地域住民との間で防災情報等を共有し、連携体制の強化や地域の防災力向上に努めています。



大分地区地域防災連絡会

市町村への大規模災害時における支援に関して、体制の確認や情報の共有などを日頃から積極的に行うことにより、円滑な支援活動が行えるよう管内12の首長等をメンバーとして平成25年8月に設置しました。

大分県冬期道路交通確保対策調整会議・災害時交通マネジメント検討会

国道10号・210号における、積雪・凍結による交通障害などの雪寒対応や、災害時の復旧活動等に万全を期すため、国、県、沿線自治体、警察、消防、NEXCO等の関係機関が対面、Web会議で集まり、情報共有、連携方策の協議、意見交換などを行っています。



洪水予報連絡会、水防連絡会の開催

水害に対する危機管理体制の強化を図るため、毎年、出水期前に防災関係機関（国、県、市、報道、消防団等）が集まり、防災に関する諸問題について各機関の情報を共有しています。

重要水防箇所等の共同点検

堤防決壊等において、住民の避難をスムーズに行うために、堤防の危険箇所を再確認し、水防活動の対応方法、避難場所、主な資機材の備蓄場所等の確認を行うために防災関係者が一同に介して重要水防箇所の共同点検を実施しています。



河川情報モニター

河川に関する情報について、情報を受ける側の視点で点検をいただくとともに、地域住民の方への河川防災情報、防災意識の普及啓発を通じて、地域の防災力向上を図るため、平成20年9月より、大分川・大野川の河川情報モニターを設置しています。

水防災意識社会 再構築ビジョン

大分川・大野川圏域大規模氾濫に関する減災対策協議会

近年、全国各地で水害が頻発、激甚化する中、平成27年9月の関東・東北豪雨による被害を受け、国土交通省では「施設では防ぎきれない大洪水は発生するもの」との考えに立ち、社会全体でこれに備えるため、ハード・ソフト一体となった「水防災意識社会再構築ビジョン」の取組を進めています。

大分川・大野川圏域では、大分市、竹田市、豊後大野市、由布市と大分県、国が共同して、「大分川・大野川圏域大規模氾濫に関する減災対策協議会」を設立し、ハード対策・ソフト対策を一体的・計画的に推進するため「減災のための取り組み方針」をとりまとめ、取り組みを推進しています。

減災のための目標【大分川・大野川（下流部）】

■ 5年間で達成すべき目標

産業・経済・人口の集積エリアを大規模水害から守るため「地域における総合的な防災力の向上」を目指す。

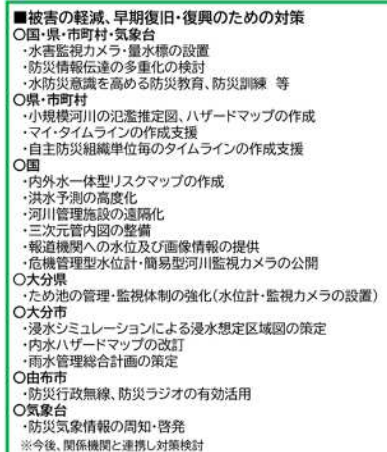
■ 上記目標達成に向けた3本柱の取り組み

1. 浸水被害を想定した、地域単位での防災教育・避難訓練・水防活動の取組
2. 自治体の早期判断を助け、避難行動を住民自らが行えるよう、きめ細やかな情報の提供
3. 洪水に対する社会経済活動の安定性を高め、一刻も早い回復を可能とする機能の整備と排水対策の取組

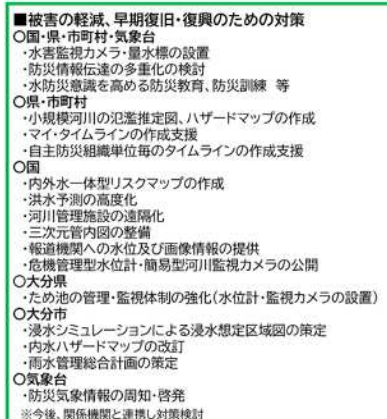


河川

道路

防
災

地域連携



過去の被災状況

河川の被災（平成29年9月台風第18号災害）

平成29年9月17日（日）に鹿児島県に上陸した大型の台風第18号は、宮崎県を通過し、日向灘を進み、高知県に再上陸しました。

台風の接近に伴い、大分県、宮崎県を中心に大雨となり、大分市内でも大野川下流部等で浸水被害が発生するなど大きな影響を及ぼしました。

また、大分県津久見市では道路の陥没や土砂崩れによって道路と鉄道が被災し、甚大な被害を及ぼしました。



乙津川左岸毛井地区浸水状況
(H29.9.17)



大分県津久見市大岩本線被災状況調査
(H29.9.20)



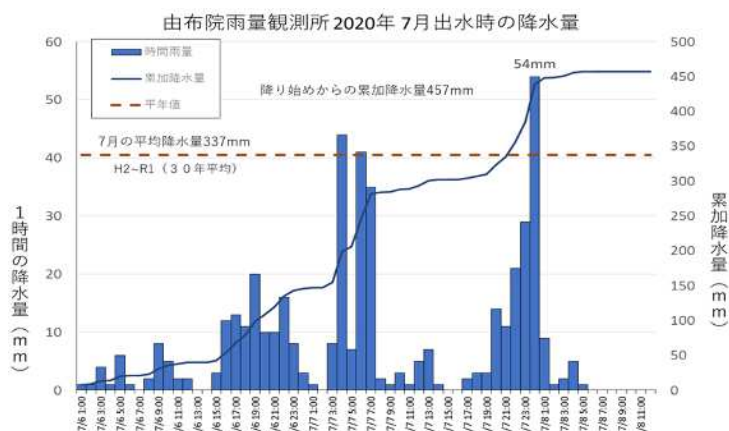
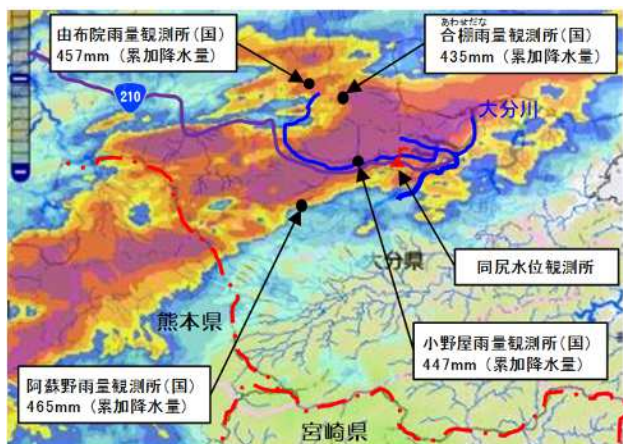
大分川右岸宮崎地区（市道下郡宮崎大通り線）浸水状況
(H29.9.17)



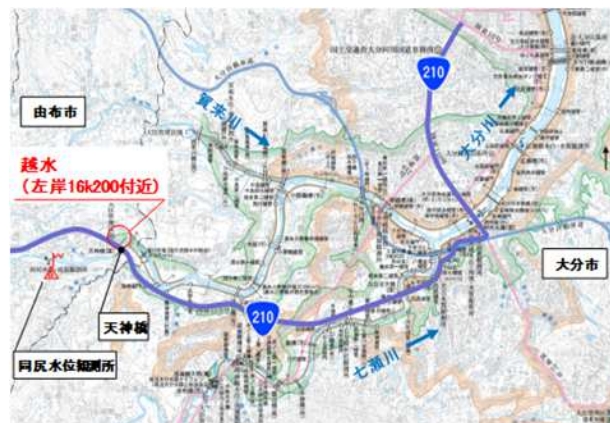
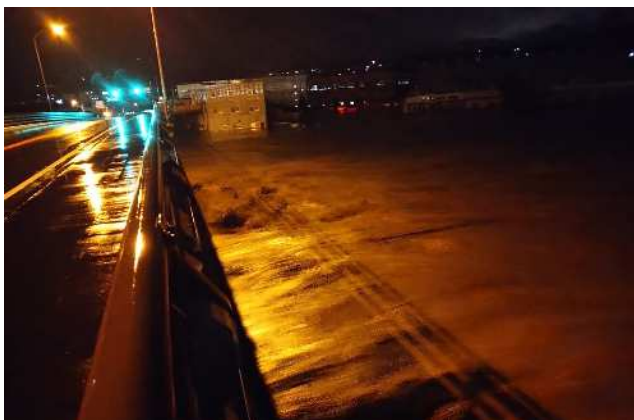
大野川右岸利光地区浸水状況
(H29.9.17)

河川の被災（令和2年7月豪雨）

令和2年7月豪雨では、7月7日（火）と8日（水）に連続して、線状降水帯により大分川流域は強い雨域がかかり、大分川上流の多くの雨量観測所で降り始めからの累加降水量が400mmを超える記録的な大雨を観測しました。



大分川16k200左岸(由布市挾間町下市地区)において、堤防からの越水を確認しました。



令和2年7月豪雨による塵芥や堆積土砂、堤防や排水施設の損傷等に対して緊急的な対応を進め、引き続き早期に台風期や今後の出水に備えるため樹木伐採や河道掘削を実施しました。

【豪雨後のこれまでの緊急的な対応】



【予備費充当による今後の緊急的な対応 対策イメージ】

【整備前】(樹木伐採)



【整備後】



【整備前】(樹木伐採・土砂撤去)



【整備後】



令和2年7月6日(月)から7月8日(水)未明にかけ、梅雨前線の活発な活動により「線状降水帯」が形成されました。県内は7月平均降水量の約1.6倍にあたる600mmの雨がたった2日間で降るという記録的な大雨に見舞われました。

国道210号では豪雨により法面崩壊・道路の陥没等、50箇所以上の被災を受け、一時、約50kmにわたり通行止めを実施しました。

なかでも日田市天瀬町赤岩地区では道路が崩壊、41日間にわたって全面通行止めになるなど大きな被害となりました。

令和2年8月17日から開始した終日片側交互通行は、2年6ヶ月ぶりの令和5年2月2日に終日片側交互通行の規制を解除しました。

法面崩壊（九重町野上）



道路崩壊（天瀬町赤岩）



復旧作業の状況



仮復旧後



本復旧後



防災情報の提供

ホームページによるリアルタイム提供

河川の防災情報

川の防災情報では、河川カメラ画像や水位、雨量の情報等をリアルタイムで取得することができます。



道路の防災情報

大分河川国道事務所のホームページでは、事務所管内の道路情報をリアルタイムで取得可能です。



【リアルタイム道路情報】

リアルタイム道路情報では「トンネル非常警報」「道路雨量情報」「気温・路温情報」を確認できます。



【道路ライブ映像】

大分河川国道事務所の道路監視カメラの映像について静止画にて確認することができます。
※災害等で事務所ホームページへアクセスが集中した際、ホームページの閲覧に支障が生じる場合がありますのでご了承下さい。



SNS等による防災情報の提供

X（旧Twitter）による情報の提供

大分河川国道事務所公式X（旧Twitter（@milt_oita））では、河川・道路の防災情報のほか、工事の進捗状況、地域との連携の話題等さまざまな情報をリアルタイムで提供しております。

大分河川国道事務所
X(旧Twitter)

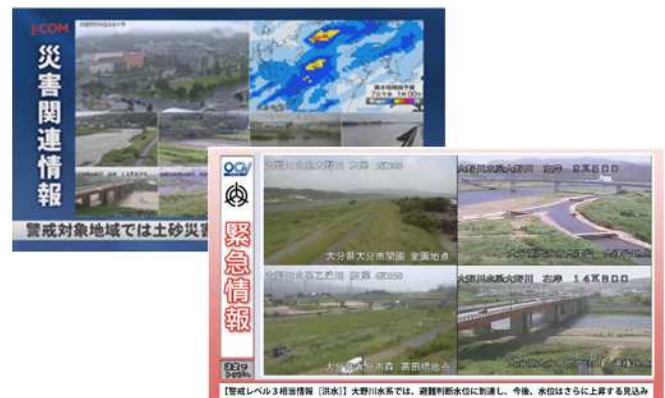


YouTube・CATVによる河川カメラ画像の配信

▶ YouTubeによるリアルタイム配信



▶ 大分ケーブルテレコム (J:COM) ▶ 大分ケーブルネットワーク (OCN) にて公開



プッシュ型配信による洪水情報の提供

大分川と大野川の洪水情報を緊急速報メール（プッシュ型配信）で配信します。



※1「洪水情報」とは、指定河川洪水予報の氾濫危険情報（レベル4）及び氾濫発生情報（レベル5）の発表を契機として、住民の主体的な避難を促進するために配信する情報です。

※2「プッシュ型配信」とは、受信者側が要求しなくても発信者側から情報が配信される仕組みです。

わかりやすい河川・道路情報の表示

河川水位の危険度レベル表示や河川利用標識などの情報表示について、一般の方にも理解しやすいよう工夫しています。

川の標識のルール



川の標識がわかりやすくなるようデザインを工夫し、禁止は赤色、注意は黄色を使って色で分けます。一目でわかるように、統一した図柄を入れます。周りの景観を乱さないように、材料やデザインに配慮しています。

危険度レベルの表示



避難の基準となる水位など危険度レベルを示した水位表示板を橋脚等に設置し、川の水位をわかりやすくお知らせします。

(下段の項目を参照してください)

海拔表示シート設置



東日本大震災で甚大な被害をもたらした津波被害を踏まえ、津波被害を軽減するための対策の一つとして道路施設等に海拔情報を表示することにより、道路利用者に海拔情報を提供しています。

予報・警報

洪水予報について

大雨が降ると河川が氾濫する危険性が高くなります。このため、大分地方气象台と大分河川国道事務所では、大分川と大野川の水位危険度レベルに応じて洪水予報を発表しています。

